

○こどもの救急電話相談運用開始

全国的に実施されております、こどもが発病した際の緊急電話相談事業は#(シャープ)8000と呼ばれますが、4月1日より長野県からの委託で本法人が実施します。訓練を受けた15名の相談員(看護師/助産師)と後方支援の4名の小児科医がチームを組み午後7時より11時の間年中無休で相談を受け付けています。お気軽に電話してください。携帯電話、プッシュ回線をお使いの方は#を押して8000番を、アナログまたはIP電話回線からは0263-72-2000番です。

○長期療養中のこどもの遠隔ケア

本法人が行っております「在宅遠隔ケア支援事業」に関連した「ビジュアルICTネットによる難病のこどものユビキタス在宅ケア」のプロジェクト名で、トヨタ財団(<http://www.toyotafound.or.jp/>)の地域社会プログラムの助成を受けることとなりました。贈呈式は4月18日東京パレスホテルで行われました。この支援により、長期に在宅療養中している障害を持つこどもとその家族への携帯テレビ電話とICTネットによるケアが大きく進展します。

○e-MADO (無菌病室入室中のこどもの心の交流)事業

2007年、全国の80施設へのアンケート調査が行われ、半数近い(46.4%)施設の74.5%がe-MADOのようなこどもの心の交流を希望していました。

この結果に基づいて、希望の寄せられた各施設の現状の視察と設置調査を開始しました。既に新潟、秋田の病院を訪問しシステムの説明、無菌病室の運用状況などを調査しています。この事業はマイクロソフト社の支援が決まりました。授与式は7月31日に東京で行われます。

○乳児院や児童福祉施設の患儿への遠隔ケア

様々な施設に入所しているこどもが発病したとき、特に夜間ではケアするスタッフが不在となります。これを支援したり、病気がちのこどものケア、福祉医療センターの患儿へのリハビリ指導を行う事業が、見てねコール事業として独立行政法人福祉医療機構の助成を受けることとなり、活動の輪が大きく広がることが期待されます。

